

第1回 西宮浜小中一貫校設置準備委員会 議事録

日 時：平成30年6月7日（木） 午後5時30分～午後7時30分

場 所：西宮市立西宮浜中学校 1階地域交流室

出席者：【委員】（15名）

大阪樟蔭女子大学山本教授、西宮マリナパークシティ協議会木村会長、
教育連携協議会木挽委員長、加藤主任児童委員、青少年愛護協議会中村会計、
西宮浜小学校PTA加藤会長、西宮浜中学校PTA堀兼会長、いるか幼稚園松本園長、
なぎさ保育園内田代表、西宮浜小学校清水校長、西宮浜小学校脇谷教頭、
西宮浜中学校加莉校長、西宮浜中学校岡教頭、津田学校改革部長、佐々木学校教育部長
【事務局】（9名）

谷口学校改革調整課長、奥谷学校改革推進課長、木戸学校教育課長、乾教育研修課長、
中島社会教育課長、村松学校改革調整課係長、小濱学校改革推進課係長、中津学校教育課係長、
足立学校改革調整課嘱託職員

【オブザーバー】（1名）

三池青少年愛護協議会長 ※ 初回のみ参加、

配布資料：資料①「西宮浜小中一貫校設置準備委員会について」

資料②「西宮市立西宮浜小中一貫校設置準備委員会設置要綱(案)」

資料③「西宮浜小中一貫校設置準備委員会の検討内容及びスケジュール（予定）」

資料④「西宮浜小中一貫教育『マリナプラン』(案)」

資料⑤-1「西宮浜小中一貫校に関する基本方針」

資料⑤-2「西宮浜小中一貫校について（パワーポイント）」

資料⑤-3「平成29年度全国学力・学習状況調査回答結果集計」

1. 開 式

- 事務局が開会を宣言。
- 津田委員より開会の挨拶。
- 各委員の自己紹介

2. 西宮市立西宮浜小中一貫校設置準備委員会（以下「設置準備委員会」）について

- | | |
|-------------------------------------|--|
| ① 設置準備委員会の
設置目的及び設置
要綱(案) 事務局 | ● 資料①「西宮浜小中一貫校設置準備委員会」及び、資料②「西宮市立西宮
浜小中一貫校設置準備委員会設置要綱(案)」をもとに説明を行う。
<主な説明箇所>
・設置目的（第1条）、位置づけ（第6条）、設置期間（第7条）
・会議録（第11条） |
| ② 委員長の選出
事務局 | ● 委員の互選により委員長を決定することを説明した後、事務局に一任された
ため、山本委員を推薦、全委員の了承を得る。（第5条） |

- ③ 山本委員長の挨拶 ● 学校も行政も両方知っているの、それぞれの立場について理解できる
ところがあり、つなぎ役を期待されているのだと思う。皆さんからお知
恵を頂戴し、実りある会にしていきたい。

3. 今後のスケジュールと検討課題について

- ① スケジュールの確認 事務局 ● 西宮浜小中一貫校設置準備委員会の検討内容及びスケジュールについて
説明を行う。
<主な説明箇所>
・平成 32 年度 4 月小中一貫校開校。
・今年度と次年度、四半期に 1 回計 8 回、設置準備委員会を開催。
・第 4 回設置準備委員会開催後、市政ニュース等で概要を一般公開。
・平成 31 年度夏に一般市民向け学校説明会を開催。
- ② 今後の検討課題
- 事務局 Q 運営形態と校名だけ色付きなのはなぜか。
委員 A 平成 30 年度末の公表の時点で、確定しておく必要のある部分に色を付
事務局 けている。運営形態や校名は公表後の変更は見込んでいない。
委員 Q 校地間道路への対応について教えてほしい。
事務局 A 交通量調査の実施からは、現時点では、交通量は多くないとの結果であ
委員 る。この点も踏まえ、道路の取り扱いについては、市役所の道路部門や
事務局 警察等も交えて引き続き検討する必要があると考える。
委員 Q 道路のままか違う形態にできるのかで状況が変わってくると思う。
事務局 A 教員や児童生徒の行き来が頻繁になれば必要な要素となるが、西宮浜地
委員 域の活性化や街づくりの視点も忘れてはいけない。総合的に考える必要
事務局 がある。
委員 Q 年度末の公表とは、具体的にどういうことを考えているのか。
事務局 A 市民の皆さんに、どんな学校にするのか、外からの募集をどうするの
委員 かなど公表したい。
- ③ 西宮浜小中一貫教育『マリナプラン』について 事務局 ● 西宮浜小中一貫教育『マリナプラン』について説明を行う。
<主な説明箇所>
・小中一貫教育の 3 つの柱「せかい」「じぶん」「ふるさと」
・幼保小連携、教育連携協議会、島内リソースの活用
・神戸女学院大学や総合教育センターとの連携
- 委員 Q マリナプランの『せかい』『じぶん』『ふるさと』は決定事項か。
事務局 A 昨年度より学校と協議を続け、この 3 つの柱を立ててきた経緯があ
委員 る。文言や中身等についても、学校の先生方と精査した結果、この 3
事務局 本の柱となった。
委員 Q 小中一貫型校か義務教育学校かでどう変わるのか。
事務局 A 小中一貫型校は小学校と中学校の形態を維持したまま、小中が連携を密

		にすることで校種間を滑らかに繋ごうというもの。一方、義務教育学校は小中を一体化し1つの学校とすることで、これまでの6・3制に捕られない自由な学年段階の区切りが可能となる。
委員長	Q	『せかい』『じぶん』『ふるさと』の3本柱については、今後の議論によって変わることもあり得るという理解でよいか。
事務局	A	意見はいただくが、基本的にはこれでいきたい。
小校長	A	3つの柱については、小学校も中学校も既にそれぞれで取り組みをしている。全てが新しいことを始めるわけではない。9年間の育ちの中でどこに軸を置いているのかを示すために、この3つの柱が挙げられ、焦点化されているのだと理解している。
中校長	A	西宮浜小学校と中学校は、平成23年度に小中一貫教育モデル校に指定され、これまで9年間を一貫した教育を行ってきた経緯がある。3つの柱はここから生まれたもので、具体的な教育実践を伴ったものだ。
委員	●	学校がもっと発展するためには生徒が増えてもらわないと困る。外部からも来たいと思ってもらえるような魅力のある内容、魅力のある学校にしていかなければならないと思う。
委員長	A	委員の皆さんから、この3つの柱だけでは足りないのではないか、どのようなものを魅力とすればよいか、という部分が共通項として挙がってきており、このあたりが今後大切な議論のポイントになる。

4. 西宮浜小中一貫校の運営形態について

① 西宮浜小中一貫校の学校制度	●	小中一貫校の2つの運営形態による違いを中心に説明を行う。
② 義務教育学校の課題	●	現在考えられる主な課題についての説明を行う。
③ 総合教育センターの付属校	●	総合教育センターについての説明と付属校にする意図について説明を行う。
④ 視察した全国の義務教育学校	●	神戸市立港島学園・姫路市立白鷺小中学校・市川市立塩浜学園への視察結果について説明を行う。
事務局		
委員長	Q	義務教育学校のデメリットとしては何があるか。
事務局	A	卒業式がないことによる戸惑いなどが考えられる。
委員	Q	小中学校両方の免許を持った教員の確保の見込みはどうか。
事務局	A	両方の免許を持っている教員は少ない。
委員	Q	子供の意見はどうか。
事務局	A	学校によっては小学校5年から中学生と一緒にクラブをしており、楽しいとの意見がある。中学1年生での不安指数も減少している。
事務局	A	塩浜学園では開校後に子供の満足度が上がっている。
事務局	A	これまでの反省を踏まえ、子供たちの成長を途切れることなく、繋げる

④ その他意見について

- 委員 ● ことのできるこの仕組みに期待を持っている。
- 委員 ● 幼児の場合は、3 から 5 歳の子供たちが異年齢で生活しているが、3 歳はやはり上の子を見て育つので、すごく成長する。
- 委員 ● 学校の魅力を考える上で、小中一貫校になり「変わったな」というイメージを持たせたい。
- 委員 Q 開校前に既に小規模化による影響が出ている中学校の部活動などについて何か手立てを考えているのか。
- 事務局 A 当面は今のルールに則ってやる。合同チームの制度により子供たちの活躍の場は担保されている。
- 中校長 ● 西宮浜小学校と西宮浜中学校は、かねてから交流や繋がりができているので、どちらの運営形態でも対応できるような素地が出来ている。
- 委員 Q 本日の内容は PTA の会で発信してよいか。
- 事務局 A 平成 32 年度の開校や、審議内容については構わない。ただし、あくまでも案であることだけは注意してほしい。

5. 閉 会

- 事務局より事務連絡。次回は 8 月の開催を予定
- 委員長が閉会を宣言。